

直腸癌に対する手術しない治療

放射線治療(+抗がん剤)+Watch and Wait

文責 外科 立川伸雄(掲載日 2024/9/1)

直腸癌は従来、治すためには手術しか方法がありませんでした。

人工肛門が必要になることもあります。

現在、直腸癌は手術をしないで根治する可能性があります。

その方法として、癌と診断された後に、放射線治療(+抗がん剤)を行い、癌が消失(約10~30%)した場合、手術をせずに嚴重に経過観察をする(Watch and Wait)という治療法があります。

Watch and Wait を行った場合、再発がなく(約30%)根治することがあります。

おおまかに計算すると100人中10人が手術をせずに済みます。

<Watch and Wait が適している患者さんの例>

- ① 手術の場合、永久人工肛門が必要となる
- ② 高齢のため、手術の危険性が高い

<手術しない治療には3通りの方法があり、年齢・病状・併存症により使いわけます>

- ① 放射線治療
- ② 放射線化学療法 (CRT:chemoradiation therapy)
- ③ 放射線(化学療法)+化学療法 (TNT:total neoadjuvant therapy)

この方法は、海外のガイドラインでは標準治療の1つとなっていますが、日本のガイドラインでは、推奨がない(*)ため、積極的に勧めることはできません。

*標準化と安全性の臨床データ不足、予後が悪くなる可能性。

しかし、直腸癌が手術せずに治るのは素晴らしいことです。

当院では、対象の患者さんに説明し、よく理解してもらった上で希望があれば行う方針としています。

また、癌が消失しない場合と、消失後に再発した場合は手術が必要になります。

なお、この治療には以下の注意を必要とすることがあり、全ての患者さんに勧められる治療ではありません。

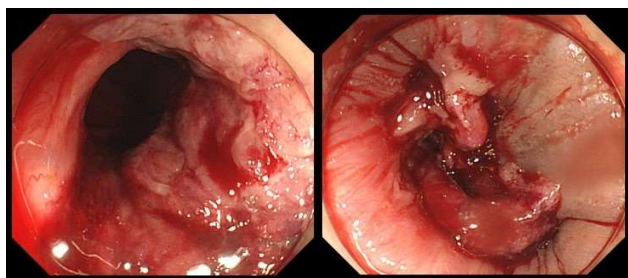
- ① 消失しなかった場合、手術後の排便障害・性機能障害が悪化傾向となる
- ② 消失後に再発した場合、最初から手術した患者さんより予後が悪くなる可能性

Watch and Wait 療法に興味のある患者さんは、ぜひ下部消化管外科医へご相談下さい。

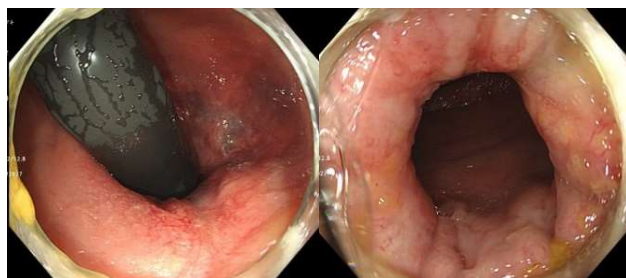
* Watch and Wait 療法は別名、「積極的経過観察」や非手術的管理(NOM:Non-Operative Management)とも呼ばれます。

<当院の治療例>

治療前



治療後



参考文献

①Habr-Gama A, Perez RO, Nadalin W, et al.: Operative versus nonoperative treatment for stage 0 distal rectal cancer following chemoradiation therapy: Long-term results. Ann Surg 2004; 240: 711-717

②van der Valk MJM, Hilling DE, Bastiaannet E, et al.: Long-term outcomes of clinical complete responders after neoadjuvant treatment for rectal cancer in the International Watch & Wait Database (IWWD): An international multicentre registry study. Lancet 2018; 391: 2537-2545

③Garcia-Aguilar J, Patil S, Gollub MJ, et al.: Organ preservation in patients with rectal adenocarcinoma treated with total neoadjuvant therapy. J Clin Oncol 2022; 40: 2546-2556